



令和7年12月15日  
第900号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0044 東京都千代田区  
九段南一丁目六番五号  
九段会館テラス四階  
電話 03-3261-5521  
振替 00160-6-25389  
編集発行人 盛川英治  
毎月1回15日発行  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会とは、戦没者の遺族の福祉の増進、慰霊救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

## 常務理事会 平和の語り部事業計画承認 昭和100年施策に合わせ企画提案

11月6日、常務理事会が開催され、平和の語り部を主軸とする令和8年度予算の厳しい現状と今後の運動方法が示された。あわせて、令和8年に昭和元年から起算し満100年を記念する国の昭和100年施策に沿った事業計画が提案された。記憶の継承を普遍的課題と提起し、応えうる団体と周知する各種記念事業が了承された。

冒頭の挨拶で水落敏栄 事業の意義、予算規模が本会会長は、令和8年度予算の厳しい現状と今後の運動方法が示された。あわせて、令和8年に昭和元年から起算し満100年を記念する国の昭和100年施策に沿った事業計画が提案された。記憶の継承を普遍的課題と提起し、応えうる団体と周知する各種記念事業が了承された。

## 高市総理に面会

### 平和の語り部拡充を要望

11月27日、水落敏栄本会会長は、官邸で高市早苗内閣総理大臣に面会した。国会において、初の女性



令和8年度予算について高市総理に要望する水落会長  
=11月27日、総理官邸で

女性初の総裁誕生から、野党が多数を占める国会において、初の女性総理に任命され、外遊、国会日程等の多忙な中で、ごくわずかな民間団体との面会の機会を得た。水落会長は、就任の祝いと9月の訪米に際し、遺族の心情を伝えるため米政府高官との面会実現への尽力に感謝を伝えた。その上で、慰霊に終わりはなく、恒久平和に寄与すべく、戦争の記憶の風化を防ぐため「平和の語り部事業」をはじめとする遺族会関連予算獲得を要望した。

高市総理は、戦没者への慰霊は国として当然であり、加えて語り部事業を含む遺族会の活動の意義を評価していると述べ、理解を示した。

## 九百号発刊に寄せて

日本遺族会会長

水落敏栄



900号発刊にあたり、購読されている皆様へ

前後一カ月に全国で朗読劇の上演など7つの企画を提案し、了承された。この他、令和7年度上半期収支、女性部研修会、本会戦跡巡拝の概要が報告され、了承された。

## 第70回奉納菊花展

### 大輪4菊に会長表彰

第70回「奉納菊花展」が、10月16日から11月5日にかけて、靖国神社で開催された。

境内の樹々が色づき始めた能楽堂前特設観覧舎に、秋季例大祭に合わせ、菊花大輪が奉納展示された。

## 謹 哀悼

中内桂郎氏 日本遺族会元評議員、高知県遺族会元会長。

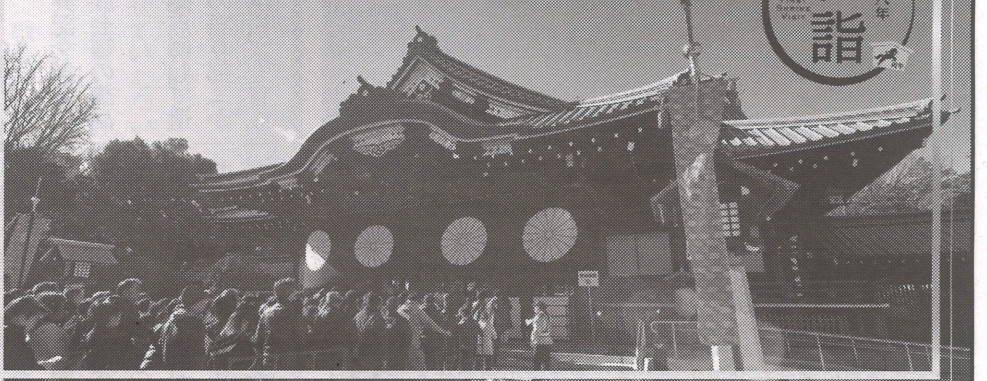
令和7年11月28日、逝去された。86歳。告別式・葬儀は葬祭センター宮脇・高岡斎場で行われた。喪主は長女、竹村志保氏。

の覚悟と孫世代への組織継承に対する希望で結んでいました。あれから8年、戦争の記憶を伝承する平和の語り部活動が事業となり、次世代青年部は、本年2月に47都道府県で結成され、会員は1万人余を数えます。

## 声なき声

この新聞が読者の皆さんに届く頃は、令和7年も残り僅かとなっていることと、今年が終戦80年の節目であったことから、各地で平和を考える催しが多く開かれた。国の補助事業に採択され2年目を迎えた遺族会の「平和の語り部事業」にも注目が集まった。利用した学校からは、「広島、長崎で大きな被害があったことは知っていたけど、私たちの住んでいる町でも大きな被害に遭っていたんだと知ってびっくりした」という感想文が寄せられ、地域の記憶を伝える遺族会の語り部が伝えていることを実感。各都道府県遺族会の努力に感謝したい。天皇陛下は今年の誕生日の会見で「戦争の記憶が薄れようとしている今日、戦中戦後の苦労を語り継ぐ活動が進められていることは一層意義深いものだと思います」と述べられている。また語り部として行動することに躊躇している遺族の皆さん、次世代に自身の体験を伝えよう。午年は、新しいことに挑戦する年に適した年とされています。遺族会がむしやに努力しなければ、戦没者の存在そのものが歴史から消える危険は否めません。戦争の記憶が途絶えた先に平和が維持できるとは到底思えません。私は千支の猪にならって、水落会長が提唱される「遺族会戦後100年までの活動」を目指し、自身に出来ることを「猪突猛進」積み重ねてまいります。(M)

## 新年のお参りは靖国神社へ



## 初詣

初詣・諸祈願参拝  
神恩感謝 国家安泰・家内安全  
厄除・社業繁栄など 受付中

靖国神社社務所  
電話 03(3261)8326(代)  
公式ホームページ  
<https://www.yasukuni.or.jp/>

靖国神社



平和の語り部事業  
国際交流

# 記憶の継承「慰霊碑・語り部」

## 台湾、パラオ招聘者と意見交換

日本遺族会は、平和の語り部事業を通して幅広い世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを考える機会を提供している。終戦80年記念事業として実施された国際親善交流事業の主要企画である御殿場市・裾野市の慰霊碑管理の視察、御殿場市と浜松市における語り部披露、台湾・パラオ招聘者との意見交換等について紹介する。

前号に続き、国際親善交流の主要企画である慰霊碑視察、語り部披露、海外招聘者との意見交換会の詳細を紹介する。

### 静岡県で交流

#### 地元遺族会と

本事業は、平和の語り部事業の先進県である静岡県御殿場市の慰霊碑管理、同市・浜松市の語り部の取組みを中核とした企画である。

○10月18日

御殿場市は二度と戦争のない社会を目指すため忠霊塔・慰霊碑のいわれ



御殿場小学校構内で忠霊塔の視察＝10月18日、御殿場市で



原里の忠霊塔の構造を説明する崎田徳康御殿場市長＝10月18日、御殿場市で

を説明した「平和への道標」の建立を進め、市内40カ所に設置し、あわせて「御殿場市慰霊碑ガイドマップ」を作成した。この機運は県内全域に広がり県内約800基のうち昨年時点で約200基に設置された。今回はこのうち6カ所を視察した。

①富士山利塔平和公園 同市出身のスーパースター、同市出身の語り部が私財を投じて、同市が勤労奉仕をして昭和39年に建立。塔にはインドネシア首相から贈られた仏舎利が納められている。同市出身の千柱が祀られており市遺族会も年一回清掃奉仕。仏塔に納まる肉親の位牌を手にしての説明に、招聘者は真剣に耳を傾けた。

②御殿場地区忠霊塔 御殿場小学校の構内に位置する忠霊塔は終戦30周年を記念し昭和50年に改修。同地区368柱を祀っている。地元職工業組合により数年に一度清掃奉仕が行われている。忠霊塔近くには、位牌堂が設置されている。

③高根地区忠霊碑



第2回意見交換会で語り部を聴講する参加者＝10月18日、沼津市で

大正初めに建立。昭和52年から翌年にかけて終戦33周年記念事業として全

ての団体より寄付、協力を得て大改修された。西戦争以降の127柱が祀られている。

④玉穂の忠霊塔 昭和15年に玉穂小学校創立50周年記念事業の一環として建立。戦後の占領下、撤去されそうになるも村民感情を受けて「平和塔」として木の箱で覆い隠し、撤去を免れ、昭和27年講和条約発効により、再び元の姿を現し、現在に至っている。

毎年同小学校6年生に地域平和学習を実施。全員が作文を書き、追悼式には代表が奉読している。今年には終戦80年を記念し、千羽鶴献納も実施され大きく報道された。

勝又将雄支部長は「戦争は美化しない、しかし風化させない」と忠霊塔における平和学習の意味を語った。

⑤原里の忠霊塔 明治41年に建立。戦後忠霊塔も併設。昭和59年コミセン建設に伴い忠霊碑として一新。脇には徴発軍馬慰霊碑あり。

地元原里中学校より広島への修学旅行で平和に対する学習を深めた3年生に、地元の戦争の歴史を教えるという依頼を受け、県語り部育成推進委員会横山委員長が、同校3年生に忠霊碑前で語り部を実施している。

⑥恒久平和祈願の碑 墓石の老朽化、遺族の

減少に伴い協議し、令和5年6月に合同慰霊碑を竣工。建設費用は会員、地元財産区からの協力も得た。石碑には日露戦争以降の71名の戦没者の芳名が記されている。

6地区の慰霊碑視察に伴い、該地区の支部長、役員は説明用資料を持参し、雨の中、丁寧に説明、対応にあたった。

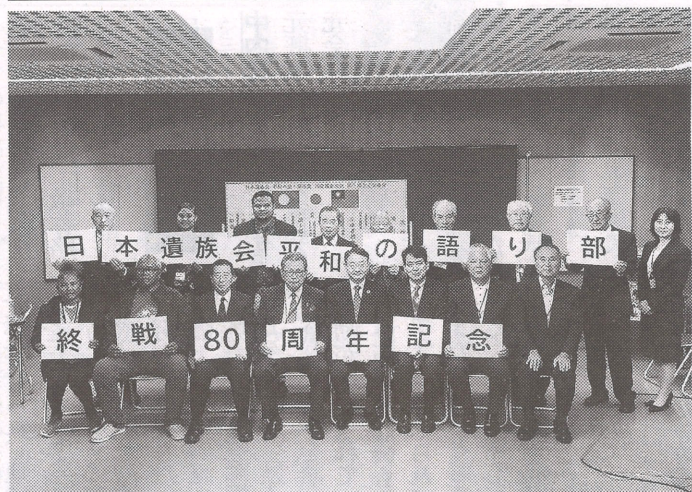
その後、沼津市に移動し、第2回意見交換会を開催。横山副会長より慰霊碑にまつわる語り部を披露（内容は4面参照）。また招聘者代表2人が講演。台湾の張吉雄主任委員は紅毛港保安堂のいわれ（旧日本海軍の哨戒艇とその艦長を祀る）と

台湾・バシー海峡に眠るすべての戦没者を慰霊し、これからも台日友好の懸け橋になりたいと語った。またパラオ共和国ナトゥス・ミセアングウル州知事は、先の大戦における激戦地となった同島では遺族、戦友、ボランティアによる遺骨収集、慰霊事業を受け入れる中で、友情が育まれた。これからの事業に限りない協力と戦跡の保全に尽力すると約束した。

懇親会では招聘者から慰霊碑の視察に尽力した遺族会役員に感謝が述べられた。静岡県増田幹夫会長は、世界平和を希求する同志として交流を深めようと語り掛けた。

○10月19日 浜松市復興記念館を視察。同市遺族会等の講話を聴講。

同施設を拠点にして遺族会や地域の語り部（家族会や地域の語り部）を育成し、流は成功裡に終了した。



第3回意見交換会には浜松市長（前列右から4番目）も参加＝10月19日、浜松市で

### 協賛 平和の語り部拡充強化

#### 令和8年度予算陳情

遺族会

自民党の遺族会応援団である議員連盟「遺族会議員協議会」総会が、11月28日、参議院議員会館会議室で開催された。

11月13日、総会に先駆けて水落敏栄会長は、同会連立一朗会長、田村憲久会長代行にそれぞれ面会し、来年度政府予算に對する本会の要望事項の最重点項目である平和の語り部事業は遺族会の意

（本人40人、代理62名）が参集した。

冒頭、逢沢会長は、終戦80年の節目に、硫黄島をはじめとする旧戦域の遺骨収集、国内外の慰霊碑の状況をみつめ、記憶の継承「平和の語り部」の重要性を再認識。必ず拡充させる必要があると示した。

参集した議員からは、語り部事業の反響、体験者が話せる今、拡充する必要性、今年初めて実施した国際親善交流の意義、国内外の慰霊碑の管

理状況への危惧、被災地における慰霊碑を語り継ぐ拠点としての再建など、多様な意見が出された。

厚生労働省鹿沼社会・援護局長は、語り部は最重点項目、その他要請事項の予算確保に全力で取り組みと回答。

最後に、田村会長代行は、語り部は地域慰霊を長年支えてきた遺族会にしか出来ない事業で、人組織の支えがあつてはじめて充実する。概算要求額の確保に全力で取り組みと締めくくった。



遺族会議員協議会総会で平和の語り部事業の重要性を訴える水落会長＝11月28日、参議院議員会館で



厚生労働大臣表彰

7年度援護事業功労者  
本会関係36支部85人が受賞

令和7年度の援護事業功労者に対する厚生労働大臣表彰が12月1日、中央合同庁舎第5号館2階・講堂において挙行された。多年にわたり戦没者遺族、戦傷病者、中国からの引揚者等の援護事業に携わり功績が顕著な方々を含む94人が表彰された。このうち日本遺族会関係者は、36支部85人が栄えある受賞に輝いた。

厚生労働大臣表彰式が12月1日、午前11時より中央合同庁舎第5号館2階・講堂で挙行された。上野賢一郎厚生労働大臣の挨拶に続いて、司会者より被表彰者の名前が一人ずつ読み上げられると、栄誉を称える大きな拍手が沸き起こった。被表彰者を代表して英ゆり氏（府中市中国残留邦人支援・相談員）へ上野厚労大臣より表彰状と記念品が授与された。その後、来賓として挨拶に立った水落敏栄本会会長が、先の大戦が終結



援護事業功労者表彰式で祝辞を述べる水落敏栄本会会長  
=12月1日、厚生労働省で



被表彰者を代表して上野賢一郎厚生労働大臣に謝辞を述べる高垣静子氏=12月1日、厚生労働省で

賀会に出席した。水落会長が挨拶し、被表彰者を代表して高垣氏

日本遺族会事務局長の乾杯発声に続き、祝賀会が盛大な盛り上がりを見せ、和やかなひと時を過ごした。表彰された本会関係者の方々は次のとおり。

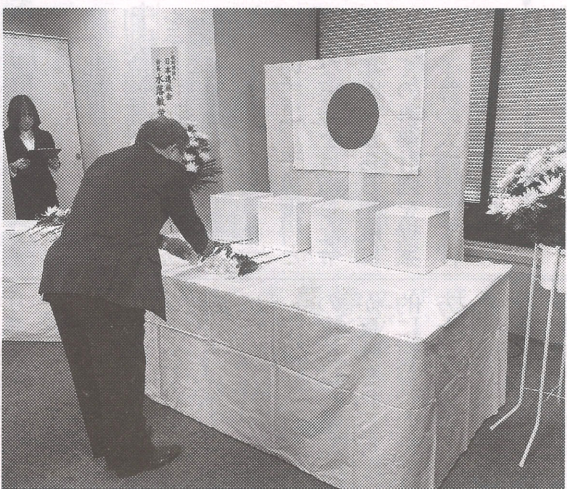
(敬称略)

【北海道】安保典、福村正見、矢野一男、土本勝昭、青森県、西村千代治、田代慶市、藤井ツナ、小林義明、岩手県、坂本昭一、上部修一、秋田県、武藤啓司、浜田セチ子、宮城県、關嘉基、福島県、岩瀬康晃、藤塚三清、山形県、阿部清二、阿部博子、衣袋捷二、東京都、盛川英治、神奈川県、飯高昌子、安田宗弘、千葉県、宇田川道恵、大塚勝幸、埼玉県、吉津長子、茂木秀夫、小林克己、茨城県、鈴木繁、齋藤一、根本清、井坂悦司、静岡県、鈴木康市、中野秀男、山田繁雄、栃木県、稲寿、山梨県、杉原五十子、石川県、南義勝、林道子、山本定夫、福井県、小川公一、木村清、三上直美

厚労省で拝礼式挙行

トラック諸島判明遺骨

11月14日、厚生労働省中央合同庁舎5号館で、令和5年度トラック諸島（沈没艦船）現地調査、遺骨収集推進協議会代表が、遺骨収集推進式を挙行した。拝礼式には、伊澤知法大臣官房審議官をはじめ、遺骨収集事業担当の厚生労働省職員、日本戦没者



日本遺族会を代表して献花する水落敏栄会長=11月14日、厚生労働省で

日本遺族会への賛助金のお礼

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集推進等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

●郵便振替  
001302-694929  
※口座名は「一般財団法人日本遺族会」にて「示し」の口座

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に對し、心よりお礼申し上げます。賛助者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）中島百合枝、宮田喜美

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報（「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。



遺族大会後に青年部企画の座談会を進行する野井和重部長=10月5日、和歌山県で

平和の語り部  
学校側の要望に沿って  
各地の語り部の取組み

今年度の語り部事業は（11月末時点、予定含む）1500回を超えた。各地域で児童・生徒に、より伝わる内容を目指し模索が続けられている。学校側の要望に沿う「遺族会」からできる語り部の一端を紹介したい。

県多数

〇体験型十対話型  
慰霊碑前での講話、清掃と共にいわれを伝えるなど（静岡県、高知県、滋賀県、宮崎県）地域の遺構を伝える体験型と共に、今年は佐賀県提供の朗読劇を遺族と次世代、児童・生徒が共に上演する形態が広がった。（熊本県他多数）こうした動きに触発され、地域独自の紙芝居、寸劇などが模索されている。（北海道）上演後、事後学習シートを使用し、対話型の質

〇自治体の協力

本事業の更なる普及には自治体の理解が不可欠であり、追悼式の機会に関連企画として講話をし、広報することが重要だ。（北海道、千葉県、静岡県、兵庫県多数）11月8日、福岡県主催平和講演として田中玉喜本会女性部長が語り部を披露した。当初8月に計

〇青年部の取組み

本事業は青年部の役割が大きい。各地の学校講話に青年部が参画しているが、さらに多くの語り部が重要となる。そのため、体験者の記憶の聞き取りが進められているが、遺族大会後に青年部企画進行の座談会を実施した和歌山県は大きく報道された。今後も試行錯誤は続く。



平和の語り部

# 第9回定期講話会を開催

## 慰霊碑から考える戦争の記憶

戦争体験者の遺族と次世代が共に記憶の伝承に取り組む遺族会の語り部の普及、拡大のため本部主催第9回定期講話会は、前回に続きテーマは「戦争遺構」。慰霊碑から考える講話と体験者の記憶の聞き取り座談会を開催。10月に実施された国際親善交流もあわせて報告。慰霊のあり方、次世代への伝承を話し合った様子を紹介します。

11月9日に開催された第9回定期講話会は横山俊英・静岡県遺族会副会長による講話が披露された。静岡県は語り部先進県として県内各地で学校で

氏に戦争の記憶を紹介。軍事物資を扱う富士紡績が、二度と戦争のない社会を目指すため「忠霊塔・慰霊碑」のいわれを進める御殿場市の中心的存在である。昭和16年生まれの横山

が破壊。防空壕に逃げる暇なく自宅を柱を背に布団をかぶった父に守ってもらった臨場感あふれる話に参加者は息をのんだ。また、3人の息子を戦争と結核で亡くした祖父（戦没者の親）の悲しみを伝え、国家に一命を捧げた戦没者を顕彰するため忠霊碑建立にかけた思いや骨壺に収められた遺骨に代わるとされた紙一枚に憤怒し号泣した様子が一同涙した。

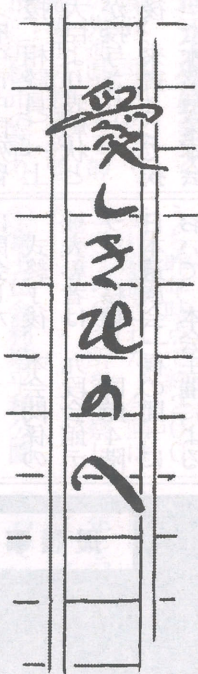
また出征後生まれ、父も母も失い兄弟として共に育った従弟が初めて父の戦没地で慰霊し「お父さん」と呼びかけた様子を語り悲劇を繰返してはならないと語気を強めた。そして息子の遺品を大切に保管し話を聞かせてくれた祖父に倣い、自宅を改装した展示室が紹介された番組を視聴した。

座談会は、忠霊塔、海外慰霊等について、学生が進行し、「まったく知らない」と慰霊を遺族会が続ける意味を伝えた。また硫黄島の遺骨収集

を紹介した遺族は、高温多湿な中で「手に触るものすべてが遺骨かもしれない」との体験を伝えた。また、次世代からはパプアニューギニア大使の「遺族の気持ちに沿い、国として御霊を弔う」との発言も紹介された。初めて参加した親子は「家族の話として繋げてゆきたい」と話し講話会の広がりを示唆した。



国内外の慰霊碑をテーマにした座談会  
=11月9日、九段会館テラスで



父母上様

陸軍曹長 藤原 藤直

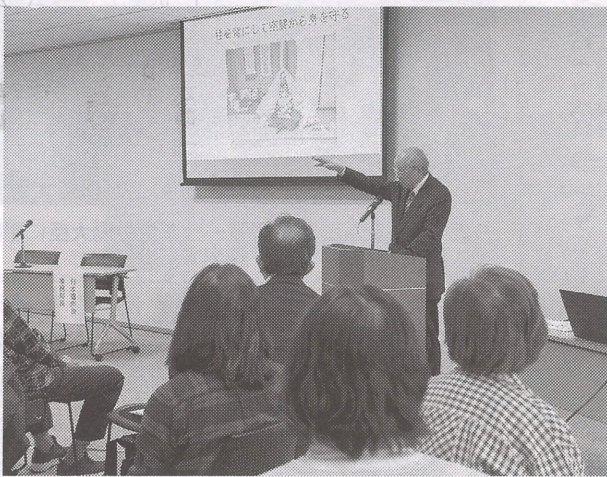
昭和二十年七月二十日  
硫黄島東海岸にて戦死  
香川県大川郡鴨庄村出身 三十八歳

拝啓時下残暑厳しく御座居ます。其の後皆々様御達者にて御暮しの事何より結構です。次に私も相変わらず達者にて務めて居ります故、何卒御安心下さいませ。先日は御親切なる御手紙下さいまして誠に有難く拝見致しました。(中略)度々のお召で父母上様に申し譚御座居ませんが、お國の為には充分に御奉公致します。立派なる戦死を致します。又子供五人は立派に教育を付けて下さい。

又大節には致しては成りません。教育又仕事は一生懸命使つて下さい。仕事は親がなれと思ひて、私のかわりと思ひて使ひなさい。春雄もさすが一人の弟可愛想です。神戸よりはるばる横浜迄、遠い所へ面會に、来て下さいましたので、私も心残りには有りません。では皆々様、御身御大切に御働下さいね。

父母上様、サヨナラ  
藤原新九郎様

【令和七年十二月靖国神社社頭掲示】  
愛しきものへ



爆撃を受け自宅で父に守られた様子を語る横山俊英氏  
=11月9日、九段会館テラスで

### 九段短歌

作品を  
お寄せください。

選者 村田 信昌

黄に輝く銀杏並木に歩を止めぬ靖国神社の参拝の帰路に  
千葉県 石橋 嘉子

八月の十五日の朝暮参り世界の平安幾重にも祈る  
山梨県 三森 一雄

戦地より笑う様になったかと手紙がきたと亡母から聞  
滋賀県 雨森 貴子

戦地にて父の日記に綴られしふるりの景色に短歌を添  
長崎県 安原 恭子

早や師走を迎えましたが、今年も内外ともに多事多  
（選者）

### 語り部育成等を課題に

#### 徳島県で事務局等研修会

10月29日、30日、事務局・事務局職員研修会が徳島県で開催された。冒頭水落敏栄本会長は、組織の継承対策として平和の語り部事業を推進し、人材育成と活動の充実のため予算の大幅増額を要望、各支部の活性化につなげたいと述べた。

研修会では、「平和の語り部事業」と「国内民

難な一年でありました。また、先の大東亜戦争終結から八十年という節目の年でもありました。靖国神社におきましては、全国の遺族会をはじめ、各県神社庁支部、神社総代会等々多くの方々がご参拝に訪れ、併せて遊就館を拝観されました。我が国の人口構成で戦後

生まれの割合が九割を超える現在、英霊達の遺された崇高なる至情を戦争を知らない世代へ正しく語り継ぎ引き繋いで行く事が靖国神社・護国神社にとって重要な務めでありました。遊就館では今年約四半世紀ぶりに展示内容を若い世代の方々にも理解し易い内容にリニューアルを致しております。日本遺族会に於かれま

しても平和の語り部事業が推進され、体験談の講話や朗読劇、記憶の聞き取りと記録等々、活動は拡がりを

見せておられます。これからも遺族の方々と共に英霊顕彰に邁進していく所存でございます。

（選者）

### 地方だより

令和7年度滋賀県戦没者遺族大会(450人)

令和7年度愛知県戦没者遺族大会(450人)

令和7年度山梨県戦没者遺族大会(450人)

令和7年度長野県戦没者遺族大会(450人)

令和7年度新潟県戦没者遺族大会(450人)

令和7年度徳島県下戦没者遺族大会(500人)

令和7年度長野県戦没者遺族大会(550人)

令和7年度北海道戦没者遺族大会(550人)

令和7年度全道女性部研修大会(72人)

令和7年度岩手県戦没者遺族大会(700人)

令和7年度山梨県戦没者遺族大会(700人)

令和7年度長野県戦没者遺族大会(700人)

令和7年度新潟県戦没者遺族大会(700人)



「平和の語り部」を主たる事業とした組織継承・活性化について語る水落敏栄本会長=10月29日、徳島市で

### お詫び

11月発行の第899号で、次の誤りがありましたので、訂正し、深謝いたします。

・4面「九段短歌」で、青森県・田中恭子様の短歌を「母は働く」と記載しましたが、「母は働く」の誤りでした。